

文 教 厚 生 常 任 委 員 会 会 議 録

〔平成23年11月17日開催〕

南 あ わ じ 市 議 会

文教厚生常任委員会会議録

日 時 平成23年11月17日
午前10時00分 開会
午前11時59分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（6名）

委 員 長	楠 和 廣
副 委 員 長	久 米 啓 右
委 員	小 島 一
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	蓮 池 洋 美
委 員	登 里 伸 一
議 長	阿 部 計 一

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

説明のために出席した者の職・氏名

教 育 部 長	岸 上 敏 之
---------	---------

参考人

(財)淡路人形協会副理事長	萩 原 重 幸
(財)淡路人形協会副理事長	小 林 健 司
淡 路 人 形 座 支 配 人	板 東 千 秋
淡 路 人 形 座 副 支 配 人	松 崎 候 磨

Ⅱ. 会議に付した事件

1. 淡路人形会館（仮称）の開館にあたっての人形座の運営及び取り組みについて… 4

Ⅲ. 会議録

文教厚生常任委員会

平成23年11月17日（木）

（開会 午前10時00分）

（閉会 午前11時59分）

○楠 和廣委員長 皆さんおはようございます。

季節は晩秋から初冬へということで、北のほうでは降雪の予報が聞かれるところでございます。

今日のかねてからこの文教厚生常任委員会と人形関係の人形協会、人形座の方々との懇談会の計画、ご案内に対しまして、委員各位には定刻御出席いただきましてありがとうございます。

この後、お願い致しました人形協会、人形座の方々に出席をいただきまして、懇談会を行いたいと思います。よろしくご協力のほどお願いいたします。

それでは今日は、文教厚生常任委員会を行うために、地方自治法第109条第6項の規定により、参考人として財団法人淡路人形協会及び淡路人形座から淡路人形協会副理事長、萩原重幸様。同じく副理事長、小林健司様、淡路人形座支配人、板東千秋様、同じく副支配人、松崎候鷹様に出席を求めていることにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○楠 和廣委員長 異議がございませんので、出席を求めることにします。

暫時休憩します。

（休憩 午前10時03分）

（再開 午前10時04分）

○楠 和廣委員長 再開します。

参考人の方々には公私何かとお忙しいなか、ご出席、ご協力いただきましてありがとうございます。

ご案内のとおり、私たち南あわじ市が誇れる500年の伝統、また歴史ある淡路人形に対しまして、今回、来春の開館を目途に現在工事が進んでいるところでございますが、そうした開館に合わせて今後の事業取り組み、また運営等につきまして、私たち文教厚生常任委員会との懇談会ということで、ご案内申し上げましたところ、公私何かとお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

どうか忌憚のないご意見を出していただきまして、有益な懇談会になりますことをご祈

念申し上げまして挨拶に代えさせていただきます。

本日はご苦勞様です。

それでは懇談会に入る前に、まず最初に自己紹介をお願いいたします。

(参考人、委員自己紹介)

○楠 和廣委員長 ありがとうございます。

それでは次に淡路人形会館（仮称）開館にあたっての人形座の運営及び取り組みについての意見を忌憚なく、述べていただきまして、先ほど冒頭に言いましたとおり、実りある懇談会になりますことをお願い申し上げまして、始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

何か。

小林さん。

○参考人（小林健司） ご案内いただいておりますので、ちょっと今日のためにペーパーを準備しております。配らせていただいておりますでしょうか。

○楠 和廣委員長 はい。

小林さん。

○参考人（小林健司） ペーパーの1枚目が「新会館完成に向けて取り組んでいる事項」ということですが、ちょっとそれのお話をさせていただく前に、2枚目と3枚目に「新会館建設計画当初のコンセプト（なぜ今新会館を建設する必要があるのか）について」。当時、理事会とか代表理事会において話し合われた事項のメモをまとめたものがございます。

ちょっと関連がありますので、これから説明させていただきたいのですが、読ませていただいておりますでしょうか。

2枚目のほうからご説明させていただきたいと思います。

平成18年秋から平成19年末頃、主にこのころなのですが、協会の代表理事会。代表理事会というのは理事のうちの主だったメンバー、いわゆる肩書き理事さんではない人の中ですね、有力メンバーを数人、代表理事会というふうに勝手に名前を付けているんですけども、その理事会とか本理事会で話し合われた事項でございます。

まず、現会館においては、平成13年度から経常利益ベースで赤字がいつています。明石大橋ができたのが平成10年。しばらく良かったのですが、13年から赤字化している。その後も引き続き赤字なんです。

16年度は△1,700万円、17年度は△2,000万円、18年度は△1,200万という赤でございます。

19年度の見込みは△3,000万円、22年度には△4,000万円に達し、26年度頃には△6,000万円を超えるものと考えられる。すでに今日現在、22年の数字が出ておるのですが、ずばり4,000万円のマイナスです。

これらの赤字の補填には、16年度までは人形座の運営基金、現在、人形浄瑠璃館基金、合併後こういうかたちになっていきますけども、それを充てていると。17年度からは市の補助金2,000万円を充てている。

補助金を充当してもさらに不足が生じてくる。館基金の取り崩しは避けられないなあと。こういうすごいペースでマイナスがいきますと、館基金は近い将来枯渇してしまう。

三高・南中・三中・福井子供会を初めですね、後継者を指導しているのは座員でありまして、伝承の、つまり人形座というのは単にあそこでお客さん相手にやっているだけでなくして、つまり、こういう伝承の核なんですね。伝承の核である人形座が危うくなれば伝承そのものがおぼつかない。

今は場所は山の上ですが、座員が各学校に出向いて行って教えている。たまには館にも来てほしいのですが、もっと近くなれば南中等が習いに来るには便利だと。

18年度当時ですが、島内の主な観光施設の対前年比入場者数はジョイポート南淡路119%。明石海峡公園119%、イングランドの丘113%、人形座96%、うずしお科学館95%。島内の主な施設の数字がみんなあるんですが、例えばパルシェ香りの館とかですね、他いろいろあります。こういったなかで、この年度最も伸び率を示したのがジョイポートと明石海峡公園。もっとも悪かったのがうずしお科学館、ケツ2が人形浄瑠璃館。こういうのを見ますと、現在の場所というのが、有利な立地とは言えないと。

先ほど委員長のご挨拶にもありましたように、500年の伝統を誇るという言葉がありました。人形座というのは全国に何十かありますけども、その中でプロでやっているのは文楽と淡路人形座の2つだけです。文楽を開いた文楽軒、これは淡路の出身でありますし、徳島であろうとどこであろうと、日本で今現存する人形座では、ここが最古、一番古いんですね。そういう2つしかない。プロは2つしかない。しかも一番古いと。そういう誇りを我々は持っているのですが、そういった我々といいますか、これは地域の誇りということに考えておりますが、そういうものをかたちで表していくためには、そういう誇りを示すためには、単独館の方がよいと。

仮に単独館となれば、固定費、駐車場費を除いておりますが、固定費が増加します。今、共同で使っておりますので、比較的低い料金であるんですが、その増加が約400万円増えるであろうと。この増加分というものを土産物販売で賄おうと。現在は横が誠に土産物屋さんでありますので、土産物販売ができていない。正確に言いますと畳1枚か2枚のスペースでちょっとしたものは売っていますが、こういう土産物販売ができますので、

これで補えるというふうに試算しています。仮に8万人、一人単価375円ということで、3,000万円。一人あたりの売り上げを375円と非常に低く見積もっています。利益率が35%、経費が月40万円。経費月40万というのは人件費30万円と消耗品費等10万円というふうにみております。人件費の30万円はパート1.5名。一人は毎日来ていただくパートの方、一人は土日祭日に来ていただく方ということで20万、10万という設定をしています。そういう計算をしますと570万円ほどの利益率が出てくる。その570万円で、固定費の増加分400万円を補えるだろうと。人件費につきましては、今の場所におろうが、どこに移ろうが同じであります。

人形協会は以前より新会館建設を方針に掲げており、基金残高のことを考えると早い方がよい。初めて新会館を言い出したのではないよということでもあります。

2枚目に移ります。

こういうことを話し合った結果、市に新会館建設をお願いいたしました。

こういった要望は他からもあったようである。正しい名前かどうか分かりませんが、福良まちづくり委員会の提言書、私は目を通しておりませんけども、聞いたところによりますと、50何ページかにわたる大提言書みたいです。そこには例えば、人形座を元の場所といえますか、福良に下ろしてくるというふうなそういうことも書かれていたようであります。

そういったことによってですね、市が動いてくれまして、観潮船前の駐車場に防災施設をかねて建設するという案ではどうかという打診がありました。国の補助金が多少付くと。それで本格的に考え出すわけです。

各旅行社に移転のアンケートをしました。各社とも「問題なし」と。問題なしの意味は、今よりは悪くならない、良くなるでしょうね、という意味を含んでおります。

これは大事なことですけども、新会館の建設は座員に夢を与え、これを契機にさまざまな改革が可能である。今、ややもしますと、いつ行っても「傾城阿波鳴門」をやっているなあと。「ととさんの名は」とやっている。同じものばかりやなあとというイメージが濃いのですが、いろんなことができる。

観潮船の前ということは、ジョイポート南淡路とはタッグを組んでお互い協力しながらやっていかなければならない相手でありますけども、歓迎の意を表してくれていました。

観潮船の前に移転して客が減るとは考えにくく、固定費の増加分が土産物販売でペイできるのであれば、必ず黒字化するとは言えないまでも今より悪くはないだろうと。

で、建設基金が約2億あります。その取崩し、館基金が約1億9,000万があります。その内の約7,000万を使おうかと。で、寄付集めで、ふるさと納税を条例化していただいて7,000~8,000万を集めようと。国の補助金6,400万円、あとは合特債なんかで何とかなるんじゃないかと。

最大の問題は駐車場なんですけども、この問題は残るんですが、以上のことがらを総合

勘案した上で市に打診を受けておりましたけれども、建設をお願いいたしました。正式に。理事会で決定しております。

今後の運営や経営計画については、座任せにするのではなくて、人形協会そのものが相当の役割を担わなければならないと。そういう話をしております。具体的には経営会議なるものを立ち上げましょうということも含めてですね、話し合われました。

で、このいちばん最後に書いてあります経営会議というのが実際立ち上がりまして、今までに7回か8回か、会を重ねております。非常に多岐にわたっていろいろな提案が出ておるんですけども、そういうものを参考にといいいますか、受けて、あるいは人形座独自で新会館オープンに向けて現在どういうことをやっておるかというのが、ペーパーの1枚目であります。

経営会議の提案っていうのはこれ以外にもですね、たくさんあるんですね。いっぺんに全部はできません。現在、主に重点的にやっておるのはいくつかのことなんです。

まず、「いつ行ってもあればっかりやな」というのを変えましょう。月がわり公演ぐらいしようよと。そこで持ち外題を増やす必要もあります。現在もかなりの数はできるんですけども、持ち外題を増やす。4外題を復活させております。4外題の中には「玉藻前」有名な「玉三」の次の「玉四」、さらに「玉五」。非常におもしろいんですね。狐が空を飛んだり、狐が七変化したり、いわゆる「外連」と言いますが、素人受けするような、そういうのが淡路人形芝居の特徴ではあるんですけど、この四段目、五段目、これぞ淡路人形と。文楽であまりしないようなんですね。おもしろいです。

それ以外にもですね、早変わり、人形があつという間になると同時に、その人形遣いの衣装もあつという間になるといいますね、そういったおもしろいもの等、いろいろと今のレパートリーとして増えてきております。

特別講演、折に触れて特別講演をやっていこうと。年に何回かやっていきたいと思います。時にはですね、地元との共同開催みたいなことも今後は発想の中に入ってくるであろうと。例えば、だんじり唄と共催し、共演しようとかですね、いろんなことが考えられる。

それから定休日を設定したいと。現在、年中無休と言いますか、12月の後半、ずっと休むんですが、それ以外はオープンしております。少人数でローテーション組んでおります関係上、休日なんかにですね、座員の動員にやや無理があるんですね。人形1体動かすのに3人います。2体だけのものではあれば6人と三味線抱えて8人。あとパラパラと。ところが人形4体出してくると6人プラスいつてくる。もうギリギリなんですね。大きな芝居をしようと思ったら座員全員の出勤が望ましい。そういうこともありますので、そういうことを可能にしていくためにやっぱり定休日があるよということで、今現在、水曜日、いちばんお客さんの少ない水曜日を定休日ということで考えております。

料金。長い間1,260円だったんですけども、先ほどいいましたように人形1体動かすのに3人必要やと。まあ言うたら非常に非効率な。ボタンひとつで動くんじゃないんで

すね。将来、近い将来、消費税の上げもあります。その辺も見込んでですね、1, 260円を1, 500円にしましょうと。そのかわり割引制度もいろいろと充実させていこうと。

土産物コーナーの充実ですね。テーマは「和」ということで現在考えております。主な仕入れ先は京都になるんでしょうけども、あとは地元の海産品なんかをどう加えていくか、これは今からの検討材料です。オリジナル商品も現在10以上、開発済みであります。これ今後またさらに増えていくと思います。大事な営業活動ですけども、ジョイポートと週に1回、営業会議をずっと続けてきております。何やってるか、パンフレット作成したりですね、看板製作したり、旅行社に企画商品の提案、売り込み等。我々、商品という言葉を使うんですけども企画商品、例えば、来年、大河ドラマは「平清盛」であると。平氏の関係でいきますと、福良湾煙島。敦盛の首塚がある。人形座の方では敦盛の芝居もあるんですね。そういうものと観潮船とあるいは食べるもの、あるいは宿泊所。そういうものをセットで売り出すと。こういうような企画商品という言い方をしております。

「人形ありますよ。来てください」言うて旅行社に行ってもそんなもんは無視されます。企画商品持って行って初めて、敦盛やったら、例えばJTBなんかですね、「それやったら受けましょう」というふうなことを言うてくれておるんです。そういうもの、どんどんこしらえて、さらにターゲット絞った売り込みを研究中。これはダイレクトメールを考えておりますけれども、どういう層が人形に来てくれるのか、ということですね。過去のデーター等分析して現在、答えを出しつつあります。

それからリピーター獲得するのにファンクラブを作ろうと、ファンクラブにはそのファンの方には特別公演とか、月がわり外題ですね、そういう案内をダイレクトメールで出したり、2回目以降は何らかの特典をつけてですね、そういうことも考えております。オープンに向けたマスコミ対策。テレビなんかが来てくれると非常にありがたいですね。ほっといたら絶対来ません。ときどき福良に来てくれてますけども、あれ皆、仕掛けてるんですね。それにはそれなりのノーハウがあるわけです。キャラバン隊をまず派遣しようか。そういうことを。マスコミ対策はノーハウ取得中であります。ほとんど取得できたかなというふうに思っておるんですけども。

あとは大事なことです。地元にかくに愛される人形座になるか。町に下りてきて「あれ邪魔なもんやの」と言われたくないんですね。「うちの人形座」っていうふうに言っただきたい。単に「愛してください」とはなかなか難しい話で、私は経済的に「人形座来たためにちょっとは潤ったの」という実感が持てるような、そういう形での協力と。具体的には芝居見てくれたお客さんに地元産品、サンプル品のようなものでいいんですけども、無料で配れたらな。「これおいしいな」言うたら、直接ですね、その販売所に注文できるというふうなシステム。例えば福良の素麺。2年物のひね物って言います。めちゃくちゃおいしいんですね。全国一違うかというくらい。いわゆる極細いうもんです。「あれ8万束できるから売り」や言われましたけども、なかなか2年がかりのものだということと、

非常に技術的に難しくて、あの極細作れるのが、今、4軒か5軒かですね。たくさんないんですね。ただそういうものが、考え方変えますと、仮に8万人来るとすれば、8万人に宣伝できるチャンスなんですね。これをどういうふうに実績につなげていくかいうふうなことも今考え中であります。さらに福良のまちって結構いいまちなんですけども、来てくれた人が、来たわ、船に乗ったわ、あるいは人形見たわ、すぐ帰ったわという中から何パーセントかの人が、何割かの人が福良のまちに入ってもらえるようなですね、そういうことが我々だけでなくして、大勢の方が考えてらっしゃる。そういうマップ作り。すでにマップはいろいろなマップはできております。積極的にですね、そういうものを配ったり、そういう形で地元で微々たる協力ができるかな、いうふうなことを思案中であります。

概略、以上でございます。

○楠 和廣委員長 ありがとうございます。

委員さん方で、ご意見がありましたら、挙手のうえ発言をお願いいたします。

中村委員。

○中村三千雄委員 まず第一に、集客人口ですね、やっぱり8万人の入場をみて計画を今、立てておられますね。その今のまでの実績と、その根拠というのはどういふようなかたちで算出されておるわけですか。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） 根拠と言われると非常に弱いです。はっきり申し上げます。過去の最高は25万人。10何万という年が相当にあります。従いまして、結構あのへん、今賑やかよというかたちのなかで、8万人というのは決して欲張った数字ではないというふうに思っております。

一つだけ問題がありますのは駐車場なんです。駐車場の計算をしておるんですけども、具体的な数字は今日、申し上げられないかもわからないけども、不足です。もちろん毎日不足ということじゃないんですけども、例えばお盆のとき、ゴールデンウィーク、シルバーウィークとか、年に何回かは間違いなく不足する。そういうものをどうやって運ぶか。例えばどこかにバス止めてもろて、駐車場作ってもろて、ピストンでやるとかですね、そういうのは、まだ今からいろいろと市があと、詰めなければならないという問題は残っているんですけども、ただ8万人っていうふうにいるのが全く希望的観測というふうな数字だとは、実は考えてないんです。根拠あるかっていうと非常に難しいです。

○楠 和廣委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 水仙郷がかつて個人でやっとなった時代があったんですよ。そのときには4万人くらいであったんですね。それでそのなかで、やはり個人ということになれば、来る旅行会社であっても安心してこの水仙郷へ送ろうかというようなことが、やっぱり薄れるいうかね、敬遠される傾向があるので、旧南淡のときにね、町がそんなんで1億3,000万であったと思うんですけども、あそこ全部買収して、町が経営ということになってから町もかなりPRをいたしました。それで、やっぱり来る旅行会社なんかも町の経営やいうようなかたちのなかでPRをどんどんしていったもんですよから、だいたいそれ以降、9万が最高であったんですけども、今で、去年、一昨年、悪くっても6万、7万前後来ておりますのでね、この人形会館もやっぱり人形協会いいながら、市もかなりのバックアップしておりますのでね、それとも十分、部長来ておりますけども、タイアップしながら、行政もうまく利用したなかで、層をあげてそこをやっていってもらうと。というのは、初めが一番大事ですのでね、スタートの初めが大事ですので、あそこへ下りてきたからよくなるというよりも、下りてきてどういうふうなかたちで集客をし、PRし、全国に発信できるかということが大事やと思いますので、十分、行政との、ジョイポートと経営会議やっておるということ。これまたジョイポートと経営会議をやっておると。ここにやっぱり市も商工観光課の担当も来さして、情報を常に発信していくというようなことも方策としているんじゃないかなという気がするんですが。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） ご提言、ありがとうございます。人形協会も、館が新しいのができればいいというようなことは全く思っていないわけで、作って、さあ今からどうするか。これは経営会議のメンバーにしても、もちろん支配人、副支配人にしてもですね、そういう意識が非常に濃厚でありまして、毎年毎年、ほっとけば、だんだんだんだん、ダダ下がりになってくるんですね。これを維持するっていうのは大変なことだってことも認識しておりますし、毎年新しい企画商品等、開発していかなければならない。苦難の道であろうということも覚悟しております。ご提言ありがとうございます。

○楠 和廣委員長 他に。
萩原さん。

○参考人（萩原重幸） 失礼いたします。

先ほども申し上げましたとおり、私は平成9年からだんじり唄、淡路人形芝居サポートクラブの世話を命じられてやっておるわけでございますが、これは当初、いつまでこのサ

ポートクラブをやるかという話がございまして、じゃあまあ、新しい人形会館ができるまで続けようやないかということでスタートしたわけです。

2年ほど前から、この新しい人形会館がだんだん固まりつつあるなかで、もうサポートクラブの一応の目的は達成できたのではないかと。こちら辺で店じまいにしようではないかという話合いもやったわけでございますが、一方、年間わずかずつですけども、助成している後継者団体からは今辞められたら困ると。せっかく我々が一生懸命新しい人形会館ができるということで、一生懸命やっているのに、今これ打ち切られたら目先が真っ暗になるというようなことで、強い要望を受けまして、だんだんと会員数が減っておりますし、会費も減ってきているなかですけども、じゃあとにかく、もうやっていることも、後継者団体の育成ということに絞りまして続けようやないかということで、続けております。

先ほど小林副理事長からだんじり唄の話が出ましたが、このだんじり唄というのは、非常にこの広い層を持っているわけですね。ご承知のようにこれは人形芝居から派生したものでして、今、だんじり唄に取り組んでいるところ、祭礼団等はこの南あわじ市、洲本の五色町あたりで、だいたい80ぐらいあるのではなかろうかと。だんじりのないグループですね、趣味のグループが10団体ぐらい、それから学校とか、子供会でやっている団体がこれもまた10団体、非常にそういうことで、だんじり唄の取り組みが盛んでして、今、だんじり唄が興って以来、全盛期ではないかなというような感じを持っています。この広い層を人形芝居に使わないわけにはいかないだろうと、そのように思う訳でございます。

新しい人形会館が出来ますと、だんじり唄とのコラボレーション、というようなこともプログラムの中に考えていきますと、より多様化した魅力に富んだプログラム展開ができるのではないかと考えています。ひいては、人形芝居への愛好者を増やすというようなことにもつながってこようかと思っているわけです。

今、いろいろと小林副理事長から年々、だんだん右肩下がりにっていくという厳しい経営状況の話も出たわけでございますが、何でこんなに重い荷物を背負わなければならないのかと、そのようなご意見の方も中には口に出さないまでも、あるようにも伺っております。しかし私は今までの淡路人形芝居とのかかわりの中で、これは絶対絶やしてはいけない、この500年の伝統というものは、絶対に我々ふるさと人としては絶やしてはいけないという強い思いになってきております。

俗に一口に500年と言いますが、起りは非常に定かではない面もあるわけですが、ほぼ確かな点が一つ出て参りまして、これは福良の中西先生が研究されたのですが、1570年、元龜元年、この年に、初代の引田源之丞座が、宮中、紫宸殿、京都に行きまして、そこで三社神楽をやった、いわゆる三番叟をやったと。そして大変にお褒めに預かったというような記録が出て参りまして、これが1570年ですから、現在の年から引きますと、だいたい440年ぐらいで、60年足らないわけですから、しかし昨日人形が始まって、今日宮中へ行くわけにはいかない。その宮中へ行くまでには何年かの歴史とい

うものがあつたからそういうことになったんだろうと。確かに、この護国寺あたりで翁舞をやったというような記録も定かではないのですが、出てきたりしているわけでございまして、ほぼ500年と。

この500年に培ってきた伝統と歴史というものがどのぐらい価値があるものかということをおしひしひしと感じているわけですが、先ほど小林副理事長が申し上げましたように、常設公演をやっているのは文楽と淡路人形だけであると。しかし、どちらも3人遣いということでは一緒なんです、文楽と淡路人形は非常に違った特質を持っているわけでごさいます。ご承知のように一見ただけで文楽の人形は小さい。淡路は一回り大きくて見応えがあるということが挙げられます。それから文楽はどちらかと言うと、世話物、男女の恋愛物なんかが得意であります、淡路は戦国武将なんかが出てきます時代物が大変得意としています。それから、非常にこの舞台と客席との一体感がある。非常にお互いの投げ合いのなかで、この芝居を進めていくというところがあるんですね。文楽は非常におすまし芸で拍手も芝居が終わってからでないと拍手をしないというようなところがあるわけですが、淡路人形浄瑠璃は「おー、待ってました」とか「おー、誰それ」というような掛け声が出てきたり、それから先ほども言いましたように外連味といいますけども、早替りをしたりですね、そういうようなお客さんを直に喜ぶ、楽しむようなところを淡路人形は持っているわけです。

実は、淡路人形というのは皆さんもご承知のように淡路だけでございまして、北は盛岡あたりまで、西は九州一円にまで淡路人形の影響があるわけです。この農閑期にみんな芝居をやる人が出て行って、現地で人形を広めたというところがあるわけですが、現在、淡路の影響を受けて人形芝居をやっているのが、全国に50座ほどあります。

平成3年から淡路で全国人形芝居サミット&フェスティバルというのをやりまして、お互い人形経営について意見交換とか、あるいは人形そのものの交換をずっとやってきたのですが、3年ほどやりましたときに、淡路のほうから提案を出しました。「この事業を持ち回りにさせてもらいたい」と。こういうことを言いましたところ、即座に出てきた意見が「いや、それは困る」と。「我々は淡路へ来るのが憧れの土地なんだ」と。「淡路は憧れの土地で、ここへ来ることによって我々は伸びていっているのだ」と。「そんなことを言わないで淡路ですっとやってくれ」と。もちろん経費的なこともあつたのかも分かりませんが、そういうことで10年間続いてやってきたというような経緯がございまして。

それからさらに申しますと、淡路人形は学術的にも非常に高い評価を受けています。特に伝統文化の人形の面で研究の深い、早稲田大学とか、大阪市立大学の先生方からは、「淡路座の」、先生方は「淡路座」というような呼び方をするのですが、「淡路座の進むべき道は、昔やっていたけども、今はもうやっていないと。いろんな関係でやっていない、そういうものの復活公演をすることに大きな淡路座の使命があるのではないか」。そういうようなことを言われまして、先ほども言いましたように、玉三であるとか、賤ヶ岳七本

槍とか、あるいは一谷嫩軍記組打の段とか、あるいは最近では忠臣蔵五段目二つ玉の段であるとか、あるいは奥州秀衡有髻塚の段。現在は、いろんな関係でやられていないものを先生方の御指導を得て、復活をさせております。「ここにこそ淡路人形の使命がある」と。「いつまでも傾城阿波の鳴門ばかりではいけない」と先生方からそういうように言われています。

それから国立劇場からの非常に評価も高いわけでございまして、国立劇場、かつて3回ぐらい行ってきたのかな、行ってきておりますが、5年に1回ぐらいは東京の国立劇場へ出演してほしいと言われておりまして、今度来年の1月27日、28日にも出かけて行って、公演することになっています。もうパンフレットも出来ているわけでございます。

こんな関係で500年の歴史と伝統、これは私たちふるさとの宝であるとは思っております。これを守っていく、これは我々の誇りでもあるし、守っていくのはふるさとの使命であるということを人形座との関わりの中なかでひしひしとを感じるようになりました。

一つには人形の火を絶やすなということを申し上げたわけですが、2つ目には、この人形振興をさせるということと、まちの活性化というのは表裏一体でなかろうかと思うことを申し上げたいと思います。

昨今、世の中非常に逼塞した感じが漂っているわけですが、何かを通じてまちおこしをしようという機運が盛んでございます。各地各様によってやっておりますが、文化によるまちおこしもほうぼうで見られるところであります。

文化興しの条件ということについて、私一度ある先生から話を聞いたことがありまして、そのときにどんなことを挙げられたかと言いますと、1番目に他にない独自の文化であるということ。淡路人形は、人形というのは、たくさんありますが、やっぱり淡路人形はそのなかで特出している。ひとつの元祖的な役割を持っているということが言えると思います。

それから一流好みのものであると。いわゆる良い物でないといけないということですね。

それから3つ目には、やっぱり大きな投資が必要であると。

4つ目には、一時期でやめない。継続は力なりということ。

5番目には、良きリーダーが必要であると。仕掛け人が必要であると。

6番目には、物語性があるとリピーターにつながる。淡路人形それぞれ物語を持っていてこれはまったく問題がないと思います。

7番目には、心が通っていること。

こういうようなことを挙げられまして、そういう条件を考えてみますと、淡路人形芝居はやっぱりこれを継続していくのに最もふさわしい芸能であるということが自信を持って言えるのではないかと思います。

この南あわじ市というところだけを考えてみましても、我々はどういうような優れた人形芝居というような文化がありますし、それから歴史もあります。国生みの歴史もありま

すし、また源平の歴史もありますし、淳仁天皇の御陵もあります。また自然では鳴門の渦潮があります。こういう文化、歴史、自然、その三拍子がそろった、これらを結びつけたまちづくりということを考えて行くのが大変に大事なことはないかと。俗に文化というのは、お金がかかるものというような考え方が一般的ですね。

しかしこの優れた文化に一旦、火が付けば恐ろしいものになるということを私はつくづくと感じたことがあります。それは皆さんご承知だと思いますが、あの富山県の八尾町にあります、越中おわら風の盆。あのお祭りです。これにはびっくりいたしました。9月1日から3日間で25万とか、30万の人々があの狭い八尾町のまちにひしめくわけでありまして。南淡の文化協会ですら一度この八尾町の風の盆を見学に行ったことがあります。実は計画が遅くて、ふた月ぐらい前にこの計画をしまして、当たって見たところ、なんと観光バスのほうが「泊まれるのが山代温泉です」と、こう言うんですね。富山県から入った八尾町へ行くのに山代温泉でしか泊まれない。そこから北へはもう旅館も一杯でいけないう。こんなんですね。それで仕方がないので山代温泉に泊まって行くことにしました。夕方6時に食事を済ませてそこから現地まで2時間、北陸道を通っても2時間かかるわけですね。行って参りました。風の盆といいますのは、越中おわら節という唄がありますね。これと、それから。

○楠 和廣委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 ちょっと今、副理事長が言われたことを人形協会として、全国に発信していただきたいんです。我々に言うよりも。我々は理解しとるんですよ。我々は人形協会の将来に何を期待し、何を求めて、何を支援したらええかという考えをお伺いしたいと思います。講演的にしたら。そやから言いましたように、今、理事会で十分この話、人形座の座員にも十分、今、副理事長の言われたこと、まず第一に人形座の職員に講演して、徹底して、下に移るんやから今までと違うという人形座の意気込み、座員の意気込みをこの機会にやってもらいたいんですよ。だから我々は今聞いておって、なるほど先生の言うの、そりゃもう、我々は期待をするために、今後していただきたいことを行政としてどうフォローしたらいいのか、というようなことを懇談会のもとでやっておりますので、そこら、副理事長、理解もしていただきたい。半時間も。我々も意見も皆あると思いますんでね。失礼な言い方やけどね。

○楠 和廣委員長 萩原さん。

○参考人（萩原重幸） えらい失礼しました。

そういうことで、やっぱり私たちの取り組みとしましては、八尾町のようなことにはな

かなか到達しないまでも、私が言いたいのは、やっぱり一番大事なのはふるさとの人に、この人形を取り巻くふるさとの人に情熱を持ってもらう。火がついてもらうということが非常に大事ではないか。その一環として淡路にはだんじり唄という強いものと。これと結びつけることは非常に効果的ではないかと。これを言いたいわけでありませう。文化にお金がかかるということ、投げてしまうのではなくて、やっぱり取り組み方によって文化を通じてまちおこしというものが可能になるのではないかと思うわけでありませう。

それから、淡路人形の隣りに阿波人形があるわけだとして、今、阿波人形が非常にものすごい勢いで、鮮やかなというか、気概がこもっていると。もちろん淡路から阿波の方へ伝わっていったものなんですけれども、本家を奪おうとは言わないけれども、そのくらい実績で示そうかというような強い勢いなんですね。そのことを感じて、私は淡路人形はもっとしっかりさせなければいけない。この淡路人形にもっと情熱に燃やさなければいけない。この前、七福神の岩坪先生のお話を聞いたことがあります、岩坪先生は、これは鳴門の渦潮についてのお話であつたわけなんですけれども、鳴門の渦潮も、それから淡路人形も、十分まちおこしに活かしきれてないと、もっともっとやる手があるんじゃないかということをおっしゃられました。

そういった諸々のことを通じて、私は副理事長として、やっぱり淡路人形というものは大事にしていかないかんいうことを、ひしひしと感じて現在に至っているわけございませう。そういうことで、小林副理事長を中心にしてやっております、人形経営会議の中にもいろいろと提案を申し上げて、あるべき姿に向かって進めているところでございませう。

すみませう。どうも、お時間とりまして。

○楠 和廣委員長 委員の皆様方に申し上げます。ご案内の趣旨に沿って、「淡路人形会館の開館にあたっての人形座の運営及び取り組みについて」ということございませうので、経緯はいろいろと説明があろうかと思いますが、具体的に端的に趣旨に沿ったご意見を賜ればありがたいと思っておりますので、ご協力のほどお願いしませう。

久米副委員長。

○久米啓右副委員長 伝統ある文化を継承するというのは非常に大事なことなんですけれども、実際にどうして具体的にやっていこうかということで取り組んでいることを小林副理事長から説明がありました。ここで大事な「営業活動」と「地元への協力」と書いてありますが、「地元の協力」というのも非常に大事かと思ひます。山から下りてきてね、ジョイポートと一緒に、ただ2つの観光地ができたっただけじゃなくて、観潮と人形浄瑠璃と福良の町めぐりというのまで付けていかないと、やはり来て、そこですぐ帰ってしまうと。もう少し時間をおいて福良を散策することになりますと、僕、思うんで

すが、海岸道路、「ちりめんロード」とか付いていますよね。そこ、手前の方はいいんですが、奥の方、歩けないですね、歩道が。作業場になってますんで、その辺は町の人と考えていただかないと、あそこが観光地にならない。人形会館から歩いていく、福良の町を散策するとかいうことになりますとね、やはり人形座、人形協会が考えるだけではなく、やはり町の人と話し合いをして、町の取り組みというのももっと引き出していただいてね、例えば、上沼恵美子さんの生家もあるし、慈眼寺に行くと奥の方には珍しい五色沼いうてね、経典をいれて、押して回せば経典を読んだのと同じ効果があるというのがありますよね。あれ京都とかしか、あまりないんですけども、慈眼寺にあるんですね。そういう福良でしかみられないもの、あるいは先ほど言った、素麺とかね、3年ふぐとかね、あと煙島の話もそうですけども、何かそういうストーリー性とか言いましたよね。観光に関しても。そういう努力をオープンに向けてされているかと思うんです。ですからその営業と実際の人形座の運営とを兼用するとなかなかできないんじゃないかと思います。協会の方もそういう作業をしてくれるかと思うんですけども、座員の方はやっぱり運営、実際に演じたりする方と、営業とそのへん重なってなかなか難しいんじゃないかということで思うんですけども実際、どんなんですか。

○楠 和廣委員長 松崎さん。

○参考人（松崎候磨） 僕もやっぱり昔、前の人形座、福良にあったときからおまして、あのときもジョイボートとか、阿淡汽船等、いろいろあそこらへん食べるとこもいっぱいあって、僕らもほんま、福良が、またこうね、地域がにぎやかになったらええなあというような考え、そうなんですよね。これから今、僕も学校を回ったりとか、いろいろ毎日のように、昨日もおとついてもずっと、新聞にも出ていますけども、小学生なり中学生なり、ほとんど見たことがない。だからやっぱり見てほしいという気持ちで、出張で少人数で回ったりして、子どもたちに伝えたり。今言われたように、僕ら芝居だけしとったらええいう、今そんなんじゃないですね。これからできたら地域との関連で協力し合ったり、また土産物、うちで売って、いろいろと協力して行って、もっと工夫、個人的にはほんとにあそこらへんがにぎやかになってほしいという思いがあるんです。で、これからもまたそういうような感じで地域の人と相談しながら、いろいろ協力し合って、あそこらへんを盛り上げたいなというのは私、個人的な意見です。

○楠 和廣委員長 久米副委員長。

○久米啓右副委員長 でも、福良の町の景観づくりとなるとやはり、ある程度、行政の「ここからここまで、皆で何とかせんか」とかいうね、てこ入れも必要やし、本当にプロ

のコンサルもね、やっぱり必要かと思うんですよ。例えば、ある人が言うたのは「福良に馬車を走らせろ」とかね、もちろん今の環境で走ってもあまり見るとこないやけど、やはりそういうのをやっていくうちに走らせるような環境になるとかね、そういうことも一つの取り組みになるんじゃないかという将来ね、これ夢みたいなことなんですけども、それともう一つね、ちょっと話は飛びますけども、新庁舎、今度建設予定してますよね、新庁舎、会館とは関係ないようやけども、僕は新庁舎のピロティというか入ったところにね、舞台を作ってくれと言うたんですよ。「何するんや」「ここで中学生が来てちょっと練習したらええやんか」と。市民であるとかお客さんがおるときにね、市長はええ返事されなかったようなんですけども、南あわじ市にはそういう庁舎等、人形の練習する場所があってね、中学生や福井の子供会が来て勝手に練習しよると。大きい声出さんようにね。そういう環境があるとかいうのもええんじゃないかということで言うてあるんですけども。もし話しする機会あったら言ってもらったらええかなと思うんです。あまり金かけんとね。だからそういう環境づくりで、町全体で人形会館をもっと広めていこうという、そういう発想が大事かなと思うんです。今の私の意見として言うてあるんですが、なかなか。

○楠 和廣委員長 登里委員。

○登里伸一委員 今、経緯は先ほどもお話ししておりましたが、観潮船と人形座が、昔の観光客は忙しかったんでしょうかね。二つ見てくれなくて、結局、観潮船のほうが出ていってくれというようなことで、上へあがったと聞いております。そうじゃないんですか。このごろは一カ所にとどまる観光が流行っているんでしょうか。

それがまず第一点と、もう一つはですね、大事なことなんですけども、人形資料館っていうのがありますね。私はやっぱりやる以上はね、そういうものを一つにしたものが欲しいなと思っておりまして、独立してあっちにあって、こっちにあるようなことでは。と言いますのは私、先月ですけども、友人が参りまして、東京から参ったんですが、「人形芝居とこりゃまあ、古い伝統のあるものだ」と、「鳴門観潮とどっちするか」と言ったんです。それで両方とも連れて行ったんですが、結局、観潮船のほう、観潮船じゃなくてヘリオスに乗ったんですけども、二つ見らんないかなと思いながら見たんですけども、昔と違って観潮船のほう、自然を見る人だったのかなと思いながらですけども、そのときにちょうどバスが3台ほど着きまして、どっと待ち時間にお土産物屋さんのほうまわっておりました。どんどん売れておりましたね。だから付近のお土産物屋さんで競合するでしょうが、買うなあ。それから女性は土産物をただでもらうというのは非常に喜ぶというのは私の愚妻からも聞いておりまして、大事なことはないかなと思ったりもしております。

それで資料館を、今の南淡庁舎とか場所は今のところは狭いでしょ。ですから本当は、土地は作らないといけないんですから、今の所にするんでしたら、いろんな考え方でもっ

と大きなものを作って、そこに資料館を入れていくと。みんな土産物へ行くか、待ち時間を資料館をのぞいて、淡路人形のすごいところを、三原の素川先生があれ一人でね、奥さんと一緒に立ち上げた資料館ですけども、やっぱり一つにして、そういうことをやっぱりしなかったら、そういうことを言わなかった理由は何かなあ思う。場所の問題なのかなあとは思っておるんですが、そのへんのお考えいかがでしょうか。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） 単独館がほしいなあという時点で、もちろんまだ場所が全く決まっていなかったのか、場所どころか会館建つなんて全く決まっていなかった頃に、こちらでは3カ所、ちょっと場所考えておりました。1つは今の観潮船の近辺、1つはファームパーク近辺、1つは資料館の1室へということで、結構一生懸命考えたんです。客のことを考えなければ資料館が一番なんですね。資料館に引っ付けるというのが。ところが、どない考えてもあそこの場所で客呼べない。で、そうなってくると観潮船に13万乗ってる、あの辺に来る人を合わせると20万来てる福良港か、40万来てるあそこかと。で、そういったなかで、ただ最後の決め手は渦は50年後も100年後も巻きとるよと。ファームパークは50年後、100年後は知らんよと。やっぱりそのへんなんですね。だからあちらのほうがいい。福良の前にお願ひしますとこちらから何したわけじゃない。あくまで単独館ということ、新会館ということをお願いしたんですけれども、そういう途中経過のなかには十分、資料館と引っ付けてということも考えさせていただいたけども、結果的にそうならなかったということでございます。

2カ所行くかどうかということですけども、まあ渦見て、人形見る人はほとんどおれへんと思います。1割かな。実を言いますとそれはあんまり期待してないんですね。2カ所行きますと高なりますし、時間もかかりますし、ただ、あの場所が賑やかよというところを作りたい。そのためには今日のお話では全くしてません、関係ない話ですけど、いわゆる物産館。大型物産館があつたら本当の賑やかな場所になるかなというふうに思っています。福良の町の人との協力といいますか、我々が独自でできることってというのは限られてるんですけども、今からやっぱり、例えば、まちづくり委員会、どんな組織があるのか、私あまり詳しくないんですが、福良の方、地元の方とはですね、一生懸命そういうお互いの情報交換しながら、お互いがこうなるにはどないしたらええの。ですから8万人とは言いません。何万人か客が増える。福良に来る人が増えるわけですから、福良の方に申し上げたいことは、利用してほしい、その8万人をどないして呼び込むんやと。8万人のうち1割の8千人なら8千人をどないして呼び込むんやということですね。利用者の考えていきたいし、考えていただきたいというふうには思っております。

○楠 和廣委員長 議長。

○阿部計一議長 先ほどからいろいろと萩原先生のご講義をお聞きしたんですが、私、人形協会も一つの企業として私は見てるんですけどね、そういう感覚からいくと何か、淡路3市、市からの補助とかサポートクラブとかそういうことのなかで、厳しいことを言うようですけども、何かそういう伝統と歴史にね、はっきり言って甘えているようなところがあると。これは私だけの意見でなくして、南あわじ市民の中にはそういう意見の方が多いですよ。それとやはり職員のね、意識改革。なんぼいくらどうこうやってものね、今の職員の意識はなってないですわ。はっきり言って。市の職員と比べると。ですからやっぱり、そういうような原点から議会でも今回の新館建設についておたくらの要望と、部長もおりますけど、そうとういろいろな葛藤があったわけなんです。そういうことでね、私らも職員に厳しい言いますが、まず企業感覚でやらんと。

例えば先ほど駐車場の問題。あそこ駐車場つぶしてやって、駐車場で相当なこれ、おそろくジョイポートやったってそりゃただで今使ってる。ちょっと、横ですかね、あれ。ジョイポートの駐車場思うけども、そういうことも全然解決もないなかでね、見切り発車していてね、果たしてそれがほんまにお客さんが入ってくれるのかなと。

今、なんか小林さんは、そりゃ1割も入れへんのちがうか、それは福良の町のほうへ流れていくふうに言いよったけども、今でもなないろ館周辺はそりゃ栄えてますけどね、そりゃ一部、ジョイポートとあのへんの業者であって、はっきり言って福良のほうなんか、そういうことでものすごい反発があるんですよ。

そういうことも含めてね、やっぱりほんまにもうちょっと、この人形、そういう市の助成ややっぱりいろいろなことでお世話になってやっとなんかいうことをね、従業員に徹底して、まずやってほしいと思います。そりゃもう、従業員なんかほんまになってませんで。普通の企業に行ったら務まるようなもんおりませんわ。そりゃそういう芸人としては、なるかしらんけどね、そういうことからやっていかなんだら、私はなんぼあそこにやってもね、そりゃそんな甘いもんちゃいまっせ。

ですからはっきり言って、駐車場問題にしたって、来年なんや言いよるけど、そういうこともきっちりやって、市からも、普通の企業としたらこんなんできついたら、はっきり言って破産ですよ。破産してますよ、はっきり言って。それをやっぱり何とか、伝統と歴史ということで淡路全体で市もサポートクラブも皆が一緒になって支えていくと言いはるんですからね、もうちょっと、やっぱり危機感を持ってね、危機感を持ってやってるんやって言われるかもしれませんが、我々からみると危機感がないと。そんなふうに思います。

えらい厳しいこと言いましたけどね、これは私だけの意見ではないですよ。やっぱりもっと企業努力を、企業努力をやっていただくと。そうでなかったらいつか、そりゃなんぼ

500年の伝統や歴史や言ったってね、南あわじ市には千数社の法人組織も会社もあるんですからね、みんな死に物狂いでやってるんですから、そういうことがやっぱりね、よく、今日おいでになってる方はリーダーなんですから、末端の職員から教育をやってほしいと思います。

以上です。

○楠 和廣委員長 ただいま出ました、現場の対応、また取り組み等について、板東支配人、ご答弁をお願いします。

○参考人（板東千秋） 「職員がなってない」という意見は、何をどう感じて言われているかということで、私も普通のね、一般企業はどこまで、むろん倒産する会社もありますし、給料面から何から、人件費から人を削減するということもありますので、そりゃ厳しいいうところも理解もしてます。甘いといえばたぶん甘いかもわかりませんが、私たちもやっぱり集客、もちろん一般的な企業の考えもありますし、もう一つはこういう伝統を守るということで、学校に教えに行ったりとかしています。二つの要素が人形座、人形協会にはあると思います。そこで私たちが何をしなければならないか、やはり会計的なものもあって、それによってこの伝統がつながるというのは自負しておるところなんですけど、鋭意努力を、いろんな人から知恵を借りながら私たちの意見を交えながらしとるところもありますので、何かこういうところでっていうもんがあれば、どんどん意見をおっしゃっていただいて、直すところは直していきたいと思います。

以上です。

○楠 和廣委員長 他に。
小島委員。

○小島 一委員 今日の懇談会は開館にあたってということでございます。この資料、いただいた資料で、協会、また人形座としていろいろ考えてやっておられるというのはよくわかります。ただ、今開館にあたってという、その会館の建設自体が若干、遅れ気味であるというふうなことで当然、今の場所でいつまで営業するのかということも、すでにもう計画されて、いつからいつまでの間に引っ越して、会館を移転するかというふうな計画も立たれておるだろうというふうに思うんですけども、これはその計画通りにいかなかった場合にどうするのかと、当然、営業の場所、座員の給料等々、新しい会館ができるまで今の場所でやれるんだ、どうかというふうなことまで含めて。それとやはり人形座、人形協会と教育部との意思疎通というのは、本当にうまくいってるのかなあというふうなことも若干、疑問に感じたりする部分もあるんですけども、いかがでございしますか。

○楠 和廣委員長 教育部長。

○教育部長（岸上敏之） 以前の委員会等でもご指摘がありました。それでそのときには、重要な事項は協会の役員様方、また人形座の支配人等と打合せをしておるんですが、小さい部分については打合せもしなかったこともあるのは事実でございます。それでそのときにも申し上げましたが、鋭意、そういった打合せを十分させていただいて進めていくというようなところでございます。

それと建設のことでございますが、言われるように工期が遅れておりまして、非常に厳しい状態でございます。それで今言われた、今の場所での、そういったところも早く協議をしたいとは考えておるんですが、今、十分協議を進めておりますので、いや厳しい状況のなかでございますので、今しばらく、取り組んでいきたい。えらいはっきりとした言葉ではないんですが、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○楠 和廣委員長 小島委員。

○小島 一委員 例えば進捗状況等について、きちんと協会のほうへ月に1回なり、何なり報告されてますか。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） 月に1回というか、1日3回というか、部長とは本当に緊密に連絡しあいしております。ただ、これは役所の職員として言えることと言えないことがあるみたいで、そのへんが私はやっぱり民間の人間ですので、たぶんそうであろうと。言えないことは言えないんであろうというようなことで、かなりの部分は推測せざるを得んこともあるんです。

例えば建設の遅れ。それが新聞によりますと3か月遅れていると。かなり以前の情報だったですけども。あれもですね、部長から「3か月遅れてます」というふうに聞いたことはございません。これはたぶん言えない話なんだろう。ひょっとしたら、その3か月の遅れを取り戻すんかもわからんし、更に水が出たとか何とかで、ひょっとしたらもっと遅れるんかもわからん。

こういうことについてちょっと、部長の立場とすればその話になったらこうなると。それはある程度こちらですね、推測しながらやっていかざるを得んような部分もありますんで、そのへんはちゃんと話し合えてますかと言われますと、ほとんどのことはできてるんですが、完成の時期がいつだとか、完成するまで今の場所でできるのか、これにつ

いてはですね、きちっとした話はできておりません。

○楠 和廣委員長 小島委員。

○小島 一委員 実際問題としてですよ、開館の時期がずれれば、やっぱり一番影響受けるのは人形座である。で、その開館の時期がいつになるかわからないということであれば、当然、今の場所の問題、県とも協議せないかん問題も発生するだろうし、段取りというのはありますわね。今日まで営業やっとして「明日から替わりなさいよ」言われても、それはちょっとできる話じゃないし、そこら言える話、言えらん話、いろいろあるかとは思いますが、やっぱり一番影響を受ける人形協会、人形座のほうやはり、もっとやはり、自分らのことですからね、やっぱり「どないなっとんのや」というふうなことをやはりもっと教育部のほうにはっきり。外部に言えらん話は内々でやってもろたらええと思うんだけど、そこらきっちり。のほほんとしておって、言ってくれらんから、推測だけでいきますよというの、若干。ほんまに開館に向けて取り組んどるんやと言うたって、取組みようがないと思うんやけど。どうですか。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） 支配人も教育委員会のほうにはですね、再三再四、再五、再六、「どないなっとるねん」とやりまくってます。私も同じなんですけども。そういったなかで、一番大変なことは予約なんです。例えば修学旅行。1年も1年半も前から。その対応とか、ものによっては、申し訳ございませんが変更をお願いしたりするようなことが出てきてるんですけども、いずれにしても私とすれば、そういった引越しの時期がいつになるかということも含めて、ここ2、3日中に座の方針、協会の方針を決めたいなと。市がどうであれ、多少余裕をもって。そういうふうには考えております。

○楠 和廣委員長 蓮池委員。

○蓮池洋美委員 結果的に、役所任せではなしに、以前から人形座、人形協会については自主経営、自主運営がされることは、望ましいというふうなことを言うてます。それに成り立つまでに、いわゆる市の援助も必要やで、ということのなかで、もう直近になってくるとは思うんですが、今、人形協会の登記されとるのが役所の中にある。いわゆる民間の法人が役所の中にある。そういう状態なんです。だから新しい会館ができるとおそらく事務所も、そちらのほうへ移られるのでないのかというふうに思ってるんですが、現実これ、オープンに建物が間に合わんという。どういうふうな考え方されとるのか聞きたかってん

けど、今、答弁いただいたら、何もできてない、今からするんやということなんですが、これはほんまに人形座として一番心配なことやな。で、それをやっぱり裏付けをとってきちりとその交換がない状態を作っていかなあかんと思うんよな。それを役所に聞いてもろてその返事と言うよりも、あんたがたが直接、工事屋に言うて、掛け合いをする。あるいは今、使とる人形座をいつまで借りられるようになってるのかわからんねけど、間に合わないときは使わせてもらうでというふうな確約も取っとかないかんのかなとは思うんよな。そやから、そういうことのなかで、ちょっと危機感がないのかなと思て聞いたかったんやけど、聞いてくれたんでな。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） ご心配いただきましてありがとうございます。一番危機感をもっているのがそこでありまして、支配人、今日はあんまり思とること言わんかもわからんけども、独自の判断で、独自に動いております。それから、新しいのができるまで、今のところを使わせてよということも含めてですね、再三申し上げております。文書で「わかりました」という返事はいただいておりますけども、現会館も所有者は市であるということを確認しておりますので、教育長、副市長、市長、そのあたりにはですね、何回もお願いはしております。

○楠 和廣委員長 萩原さん。

○参考人（萩原重幸） 今度は長く言いませんので。

先ほど座員の意識の問題についてちょっとご意見がございましたが、私が見てるかぎりには非常に礼儀正しいし、節度のある行動で、一生懸命にやってるなと思うわけでございます。さっき申し上げましたように、人形とまちづくりは表裏一体でございまして、人形座の動き方というものが本当にまちづくりに影響されてくると思うんですね。私は直接的に人形に関わってる座員の人たちというのは、ひっくり返して言えば、これはまちづくりの旗頭ではないかなと思うわけです。その人らにやっぱり、夢を持ってもらいたい。

何か今、問題があるとすれば、やっぱり座員の人共通に、意識の底にですね、将来に対する不安というのがあるのではないかな。ですからやっぱり、何といたっても将来的に安定して、安定した考え方で夢を持って取り組んでいただけるようなことになってもらいたい。そういうふうに私たちは持っていかなければいけないと思うんですが、これについては先生方に、議員の先生方にも、本当に座員が、本当にまちの旗頭でございまして、希望を持って邁進できるような、打ち込めるような、そういう方向を何とか打ち出していきたいものだと思います。前には公務員待遇というようなこともございましたが、今

はそれがもうなくなってしまったということが意識の底に深くあるんじゃないだろうかと思うわけです。この点についてはひとつお願い申し上げたいと思います。

以上です。

○楠 和廣委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 この完成に向けて取り組んでいる事項のなかで、今、人形座のこと言いましたけれども、今の体制で新しい、降りてきても体制は変わらんとするんで、座員は降りてくることによって増やすとか、そんなんは考えてないんですか。

○楠 和廣委員長 板東支配人。

○参考人（板東千秋） 来年といいますか、新会館に向けて、やっぱり役者が不足しておりますので、1名採用ということで。ただ、収支のことももちろんありません。増やせば大きい芝居は打てるんですが、やはりそこらは企業的な考えもあって、やっぱり人件費というのは一番大変なことでもありますから、とりあえず今、1名増やししながら座員ができる仕事をもっと増やすということで考えております。

○楠 和廣委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 といいますのは、この3番目の少人数であって、定休日が必要になってくるということになれば、定休日を設定すれば、おのずと人数が不足するのは誰が考えてもわかることであって、その場合、今言った収支とのバランスもあるけども、やはり今の現状のままであれば、定休日を取ったって、出てきてやらなあかんという受け止め方をするんですけども、定休日を設定することについて、そのために座員を今一人増やすと言ってますけども、来年ですか。定休日を必要となってきた場合に座員は今のままでローテーションなりしていけるのか、やはり完全に取りこんであれば、座員をやっぱり増やさなければいけないかというようなことについてですよ。どうですか。

○楠 和廣委員長 板東支配人。

○参考人（板東千秋） 今はいちおう年末のみ休みになってます。うちはシフトを組んでまして、一日一日、役者が出る人数が、やっぱり休館日がなければ少なくなります。もちろん休み取っていくということで。休館日を入れることによって、一日一日出勤する人数が増えます。で今とのやっぱり差をつけるということで、やっぱり大きい芝居を、今ま

でできてない分をやっていくということで、人数を増やしてやるということで、その定休日はいちおう定休日として休みをしますので、休館日という位置づけにします。シフトについては、1日延べ、出てくる人数が増えます。大きい芝居を打つということで定休日を入れることによって、やっぱりリスクはもちろんありますが、今と違った大きな芝居を打って行って、差をつけて、魅力ある施設づくりということに考えております。

○楠 和廣委員長 中村委員。

○中村三千雄委員 それでは今の体制で、そのようなかたちで当分はやっていくということで、理解してよろしいですね。

○楠 和廣委員長 板東さん。

○参考人（板東千秋） はい。

○楠 和廣委員長 登里委員。

○登里伸一委員 先だって淡路市が、昔は1市10町が、今も応援していますね。仕分け作業が民主党のようにありまして、淡路人形協会に対する支援をやっぱり問題にしておりました。この頃は、高速道路も1,000円がなくなりましたし、非常に不利な料金が重なってきているのですが、今先ほどもおっしゃっていましたが、去年は3万7,000人ですか、8万人というのは非常に至難の業ではないかと思うのです。爆発すれば萩原先生のようにたくさん来てくれるかもしれませんが、大変な状況だと思いますが、やるしかないというぐらいの今の考えだけでしょうかね。

○楠 和廣委員長 板東さん。

○参考人（板東千秋） 先ほどもおっしゃっていた方もおりますけども、一番開館が一番新できるチャンスだと思います。このオープンの時期が。やはり今までどおりでしたら今までのようにお客さんも少なくなり、より魅力作りを何するかということで芝居の月替わり公演であったり、今までやれていない芝居、淡路の魅力が出せる出し物。それから芝居というのはなかなか昔の方は内容までよく知っていたのですが、それをやはり分からないものを分かりやすく、前説を詳しく入れるであるとか、見に来たお客さんがもう一度見に来たいという魅力をどう付けるかということですので、それは必死になっています。一回見て、「あそこはあんなや」と思われたら二度と来ませんので、やっぱり連れて行きた

いなということを、はい。

今のまま引き続くというのではなく、一新できるように、自分のところの座内での話ではなく、やはり地域の方とか、経営委員会にいろいろ諮って、それだけに精通している方でない意見を聞きながら、それを取り入れて、魅力作り。

それから先ほど議員さんおっしゃったように、資料館と一緒にあったらよかったのですが、なかなかいろいろな関係でできない。ただ今も人形浄瑠璃資料館と人形浄瑠璃館がほぼ一緒の名前なので、よく間違われる方がいるのですが、そういう資料館と両方今タイアップしながら、お客さんを送り合いするとか、ジョイポートさんだけでなく、宿泊施設の要望も聞きながら、また割引券を置かせていただくとか、やはりそこに観光施設を、一番金額の高い施設、見学時間が長い施設が寄りますので、相乗効果をどう高めていくかということの商品作りと言いますか、そういうのを組んでいきたいと思っています。

○楠 和廣委員長 登里委員。

○登里伸一委員 一番、一市になれば良かったのですが、それはねえ。私はそういう関係もあって時期尚早という考えで反対しましたが、始まった以上は立派に仕上げていかなければならない。

それでなんと申しまして、個人の家族連れは一箇所滞在が多いだらうと思うのですが、一番バスツアーを取り入れるというのが非常に大事な人数の確保には大事なことだと思いますので、先ほどのことなんかもそれを含めたかたちで申し上げましたが、ぜひそのためのご努力を本当に死にものぐるいでやらなくては、前にもちょっと言いましたが、一般質問で、教育部で相当予算を取らなくては、まかなえきれないだろうというように考えています。ですからぜひその辺を確保いただいて、支援はいたしますが。

それともう一つですね、お宅の協会には事務長さんはおられますか。

○楠 和廣委員長 教育部長。

○教育部長（岸上敏之） 事務局は教育委員会にありまして、事務局長が私でありまして、事務局次長が教育部の次長で担当課が生涯学習文化振興課、そういうようなことで合併後、やらせていただいております。以前は広域事務組合でした。

○楠 和廣委員長 登里委員。

○登里伸一委員 懇談会ですので、こんなげす話も出しますが、私たちは初め、今の部長の天下り先を作っているんじゃないかという気持ちもありまして、現に、指定管理した

実は先だって、松島町の観光の港に視察を行いまして、あそこは4メートルほどの津波が来たのですが、結局一人の犠牲者も出さずに観光客がみんな無事であったという、そういう話を伺って参りました。今から先の話ではありますが、津波対策はあそこは瑞巖寺の修行僧がたくさんおりますので、その人達が結論から言うと、訓練の賜であると。月に一回ぐらいやっているんですね。お坊さんはどこの辻に立って、こう誘導すると。それものがっちりやっています、お土産とか、発着場とかの事務所なんかでもここまで来ましたよというぐらい高いところまで来たのですが、全部お寺と契約したホテルに上げて、たまたまお寺もたくさんお米を持っていたので、何日間かは賄うことができた。帰るのは秋田や山形から帰ったそうですけども、その皆さんもまかないもできたということを通して、とにかく結論はよくやる訓練のおかげであったということです。またご参考にいただけたらと思う次第です。

○参考人（小林健司） 登里先生からもいろいろなお話をいただき本当にありがとうございます。

蓮池先生の民間の法人が役所に何があるというような、これについては改めてですね、お話をする機会を設けたいと思うのですが、ご存じの通り、財団法人淡路人形協会、1市10町が出資、出資というか寄付というのですが、出資して、作った法人でありまして、現在それが3市。一般会社で言えば資本金のうち、株主さんが3市ですよという状況でありまして、これは仕分けの件とも絡むのですが、淡路市の。淡路市の仕分人の方ですね、仕分けされたその時点の考え方は、淡路市の補助金が入形座の赤字の補填に使われている。そういうふうな観点から仕分けに入っているんですね。それは淡路の市長さんともその後、

私も話をさせていただいていますけども、淡路市の補助金というのは人形協会の本会計、一般会計のほうに入っていて、これは全額後継者育成に使われています。人形座のほうは別途会計でありまして、淡路市からいただいたお金で赤字の補填ということをやっているということをやったのと、先ほどの民間の法人の話に戻るので、そういう3市の出資の法人であるということで、100%民間の法人で考えていいのかどうかというのは一部、私のほうではまだ結論は出ていません。

いずれにしても、自主経営が望ましいという先生のお話も重々理解しておりまして、実を言いますと、3つの基本方針というのを我々持っております。そのうちの一つにですね、自主独立の気概を持ち、常に自助努力に務めるというものがありまして、これは意味するところはできるだけ補助金を貰わなくてもできるような強いものにしていきましょうという気持ちが反映された文章であります。結果としてはどうなるかということなかなか読めない部分があるのですが、気持ちとしてはですね、できるだけ市に負担をかけないようなものにしていきたいという気持ちはあります。

と同時にちょっと時間が長くなりますけども、これだけちょっと言わせていただきたいというのは、資料館のお話が出ておりますが、あの資料館は赤字か黒字か言い出すと、赤字だと思うんですね。売り上げゼロで開館のための人件費が要っております。人形座も職員さんが後継者への指導とか、各学校回りでの伝播とか、そういう時間、1年間になんば使ったのかということをして1度試算したことがあります。時間的に24%がそれに使われております。ただそういう教えに行くのはベテランの座員さんが多いので時間としては24%なんですけど、給与としては28～29%になっております。それに伴う諸経費を考えますと、単に人形座ではなんと言いますか、お客さん相手に営業活動のみをやっているのではないということをぜひご理解いただきたいというふうに思います。

余分なことまで申し上げてすみません。

○楠 和廣委員長 議長。

○議長（阿部計一） 先ほど私発言したなかで、板東くんが理解されていないようなので、「どういうところが」ということを言われていましたが、先ほど蓮池委員からも発言がありましたけども、これは自主的に運営していただくということは、これは一番ベストなんですけど、そういうことがなかなかできないということで、市長が理事長と。本来ですと、補助を出す長が理事長をするということは、本当におかしな関係なんです。これは市長自らそういうように言っていました。いつかはそういう独立してやっていかないとけないということは、理事長は市長であれば、やはり皆さん給料体系は存じていませんが、おそらく市の公務員に準じた給料を貰われていると、私の想像ですけどね、思っているんです。ということは市の同様の職員の勤務評定とか、勤務態度とか、やはり企業でもそう

です、会社があつて従業員がある。従業員があつて会社がある。ですから人形の芸人さんであつても、芸人という言葉はちょっと言葉適当かどうか分かりませんが、自分らがやってやっているんだ、ではなくて、やはり特殊な技能を皆さんのおかげでやらせていただいているんだというような、やはりそういうような意識の改革、そういう改革を意識して、萩原先生は「私らにも礼儀正しい」のは、それは当然だと思います。そういうことでやはり一般市民のなかで、そういう声があるということが、やはり板東さんが職員のリーダーであればね、そういう、皆さんよく見えていますからね。やはり市が理事長、まあ言ったら中田市長が社長だという感覚のなかで見えていますのでね、やはりそういうもうちょっと謙虚な気持ちということのを忘れないで頑張っていたきたい。議会もこれはいろいろありましたけども、500年の伝統を守っていくというのは全員一致した意見であつてね、ただそういうなかでやはりもう少し自助努力、何というか、自分たちでやっていくんだという感覚をね、やっぱりもっと厳しく持つてほしいなという意味で言ったので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） いろいろご助言、本当にありがとうございました。肝に銘じて、今後改善すべき探して、また何やっていきたいと思います。

一点、給料体系なんですけど、市の職員さんのレベルとうちのレベルと大分違います。これが但し、市の職員さん、今後の問題として、市の職員さんはあんまり上がらないんですね、うちは多少上がってきていると。どっかの時点で、こうしないといけないという時代は来るだろうというふうには、私個人的には思っております。

今現在はこういうことです。これがどの程度なのか、調査をお願いしたりしているのですが、そういう段階です。

○楠 和廣委員長 議長。

○議長（阿部計一） 旧町時代はね、森先生の時代は私はまだ議会はまだ行っていなかったけども、やめはれて、すぐに行って、人形の当然入る方は町職員並の待遇やということで、私はそんなふうに解釈していたのですが。広域行政の中ではそうではなくして、今回はそういうようなかたちになっているということなので、当時はそんな噂もしてしましたし、それでそれ並の給料を払っているのかなという解釈で言ったわけですけども。

○楠 和廣委員長 小林さん。

○参考人（小林健司） いわゆる組合立、南淡、西淡の時代、合併になる直前の時期に準公務員としての身分でなくなったということと、給料をダウンしたという、2つのことがありました。今現在に至るというふうな状況です。そういう状況ではなくなったというのが、先ほどの座員の何に不安が云々という発言もありましたが、その辺もちょっと絡んでいることかと思います。

○楠 和廣委員長 今日は長時間にわたりまして、休憩もとらずこうしていろいろと具体的なお意見を賜りましてありがとうございます。

閉会にあたりまして、久米副委員長よりお礼の挨拶を申し上げます。

○久米啓右副委員長 本日は人形協会、また人形座の幹部の方と、初めての懇談ということで、非常に有意義な時間を過ごしました。

議会、特に我々の委員会の心配事は来春予定通り会館がオープンできるのかということでございます。しかしながらオープンした後はですね、まちの賑わいづくりを取り戻していただくよう頑張っていただくことを祈念いたしまして、本日は閉会したいと思います。

どうもご苦労様でした。

（閉会 午前11時59分）

委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

平成 23 年 11 月 17 日

南あわじ市議会文教厚生常任委員会

委員長 楠 和 廣